

どの地域にも独自の風土や昔から受け継がれてきた文化があります。この東部太平洋岸地域においても、雄大な自然に囲まれた中で豊かな文化が育まれてきました。

ほんの一部ですが、今回は各校区の魅力を特集しました。普段暮らしている地域について知り、地域の魅力の再発見につながれば幸いです。

潮騒

CONTENTS

- ◆特集1「生誕100年を前に」 P1
- ◆特集2「校区自慢！」 P2～4
- ◆連載「表浜の地形とくらし」第2回～表浜の海食崖の地層について～ P5
- ◆田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の概要 P6
- ◆表浜風土記「大草甚句」大草の歴史と文化を学ぶ会 P7
- ◆令和元年度事業計画 P7

【第21号の表紙】

昨年開催した第21回表浜自然ふれあいフェスティバルでは、久美原海岸～大草海岸までの一帯で海岸清掃を行った後、メイン会場の谷ノ口海岸で、津波避難訓練を実施しました。8月の九州北部豪雨や台風15号など大規模な自然災害が各地で発生しており、いつ起こるか分からない災害に備えて準備しておくことが今後より必須になるのではないのでしょうか。

ほかに、親睦会場となった表浜ほうべの森では、東部中学校による「東中ソーラン」や全員参加の「じゃんけん大会」が行われ、おおいに盛り上がりました。フェスティバルを通じて、自然災害に対する備えや表浜海岸の現状に目を向けてもらえたらと思います。



生誕100年を前に

.....
表浜地域の暮らしを著した山田もとさん

～本誌「表浜むかし話」の執筆者はこんな方～



山田もとさん
(2004年に逝去されました)

「海亀のお墓」「潮の流れ」「神の釜と久丸さま」「水の乏しかった頃」…こんな昔話を「潮騒」で読んだ方もみえるでしょう。これまで、創刊号の「大漁不動様」に始まり、第18号の「中田恭一画伯」まで毎号「表浜むかし話」のコーナーで表浜地域の生活や文化などを昔話に例えた話を紹介してきました。

その執筆者の山田もとさんは1920年に大草で生まれました。生誕100年を前にもとさんの年譜を紹介します。また、大草校区ではもとさんの作品で演劇が上演されており、その演劇公演の様子を紹介します。



山田もとさんの著書

山田もとさんの年譜

●1920年

渥美郡神戸村大草(現 田原市大草町)志田生まれ

●1939年

野田尋常小学校へ勤務(～47年)

●1957年

名古屋童話作家協会入会

●1964年

田原中部小学校PTA 機関誌「家庭と学校」に作品掲載(2004年まで田原に伝わる民話、伝説、伝記など156作品)

●1981年

「水の歌」刊行

●1992年

田原町町政功労者表彰

●1999年

「牛と歩いた道」刊行
第6回新風舎出版賞優秀賞受賞

●2004年

逝去

大草小学校6年生が「水の歌」を学芸会で発表 (2001年12月)



▲水汲みの苦労を演じた子どもたち
(井戸から水を汲む場面)

「水の歌」は、主人公おしま(明治27年生まれ、昭和50年逝去)が、大草志田に嫁に来てからの水汲みの苦労話を中心に書かれています。もとさんはあとがきで「このお話は、名前を別にしてほとんどが本当のことです」と言っています。これを読むと、当時の大草など表浜地域の人々の暮らしの一端が理解できるでしょう。

大草自治会区長会が「一本木の狐」を市民館まつりで発表 (2018年10月)

「一本木の狐」は、本誌第3号で紹介されています。

大草平松に生えている赤松に棲むいたずら狐が主人公の短いお話です。以前の海岸近くの土地の様子や豊川用水通水以降の農業の変化も知ることができでしょう。



▲大草自治会区長会が発表した「一本木の狐」のフィナーレ

人に愛されるキュウリ作りを 【田原東部校区】



朝夕めっきり涼しくなり、秋の気配が感じられる頃、キュウリを栽培する鈴木さんの温室を訪れました。快く応対していただき、いろいろな話を聞くことができました。

鈴木さんは300坪の施設に、お母さんとふたりでキュウリの栽培を行っています。以前は露地農家でしたが、20年前にエンドウを栽培するため、温室を建てました。

その後、10年経過し、品目をキュウリに切り替えて、現在に至っています。8月上旬に定植し、9月上旬から11月中旬まで収穫しています。収穫は、1本ずつハサミで切るので、とても面倒だそうです。



鈴木 良光さん
(谷熊町在住)



大変苦勞していることは、害虫駆除です。こまめに手入れを行わないとすぐに虫にやられるため、重要な作業になっています。また、害虫の種類によって、作業が異なってくるため、日々苦心しんさんたん惨憺しているとのこと。

谷熊地区でキュウリを大量に栽培して出荷している農家は、良光さんを含め、3軒だけだそうです。鈴木さんは、規模的にも経験年数に

おいてもいちばん少ないそうですが、誰にも負けないおいしいキュウリの栽培をめざしています。今後もキュウリ栽培を継続し、多くの人にみずみずしく新鮮なキュウリを食べていただくという気持ちがひしひしと感じられました。そして、多くの人に愛されるキュウリ作りを続けていただけたらと思いました。



寄稿：岡田惣二さん（豊島町在住）



六連小学校の廣中先生にお話を聞きました！

質問1 六連小学校の特色について教えてください。

現在の全校児童数は61名と小規模であるため、全員が顔なじみです。先生たちも児童全員をよく知っているので、みんなで児童の成長を見守っています。上級生は下級生の面倒見がよく、六連保育園とも連携しており、入学時のストレスが少ないのも特徴です。休み時間になると児童たちは学年関係なく遊んでいます。また、学校にはビオトープ（生物が生活できるように設けられた草地や池）や畑があり、豊かな自然に囲まれているので、さまざまな体験をすることができます。

質問2 六連小学校で行っている地引網について教えてください。

毎年5月の第4土曜日に行われる地引網は、地元の網元さんの協力のもと、全校児童と保護者が参加します。開催して42年目となる今年は、残念ながら天候の影響で中止となってしまいましたが、海岸でドッジビー大会を行いました。

質問3 地引網の様子について教えてください。

まずは網の準備をし、網元さんが波の低い瞬間を狙って船を出します。その間、親子で海岸の清掃活動を行います。船が戻ってきた後、網元さんの合図で網を引っ張ります。網を引っ張らない子どもはならず、みんなで力を合わせて引っ張ります。とった魚は持ち帰り、地引網終了後は、網元さんから魚の名前当てクイズを出してもらったり、親子そろって豚汁やおにぎりを食べたりします。

質問4 地引網を通じて学んでほしいことは何でしょうか？

地引網を通じて、海と触れ合うことで海をより身近な存在に感じることができます。児童たちが自分たちの住んでいる地域の文化や風土を知る、よい機会となっています。



学校で収穫したトウモロコシをポップコーンにするよ！



イネを収穫！他にも畑ではスイカやイモをつくっているよ！



この池にはカメなどがいるよ！



みんなで力を合わせて地引網を引っ張るよ！

昨年度の地引網の様子

谷ノ口公園表浜ほうべの森キャンプ場では来場者数が増加しています。2018年(4月から9月まで)の5848名の来場者数に対し、今年度(4月から9月まで)の来場者数は8700名となりました。その中にある多目的ホールの利用も年々増えています。赤海亀の産卵地として知られていることから、ホールは亀の甲羅をイメージした六角形になっています。



上から見た谷ノ口公園表浜ほうべの森キャンプ場

ホールの利用方法は多種多様です。当初の利用は多くはなかったものの、自主事業でアコースティックライブ(音楽ライブ)を月1回のペースで始めたところ、思わぬ反響がありました。一番はホールの型と内装で音響効果が非常に良かったことです。口から口へと伝わり、CDの作成のために利用していただいたこともありました。多方面に向けてホームページで利用状況を報告することによって次に繋がっています。今年度はウェディングパーティー、ヨガ、各種体操、ダンス、子ども会等の会食会等、さまざまな目的でご利用いただいています。



音楽ライブ



ウェディングパーティー(2018年5月)

ウェディングパーティーはブラジル人の会で、3~4回利用のルール等を説明しました。前日には美しい飾り付けもし、東海三県から約100名が集まり、開催しました。終了予定時間の30分前には片付けも終わり、スムーズな利用になりました。

それ以外にも各職場やグループの親睦会、イベントで幹事さんが一番困ることである「中止」をしなくてもいいことが利用につながっていると思います。幹事さんとの打合せに積極的に多目的ホールと研修棟を合わせたイベントの提案をしながら、講師の紹介など全面的にイベント成功に向けて

進められるように協議・協力をしています。その中で婚活イベントが今年度は3件ほど利用予定になっています。

以上のような状況の中、4月から8月までの多目的ホールの利用人数は690名となっています。子どもたちは車が入らない芝広場で遊び、大人はホールで雑談しています。先日のキャンプのイベントでは、映画鑑賞会が行われていました。日々ご利用いただきありがとうございます。このようなイベントを通じて地域の交流やにぎわいづくりに一役買っています。

寄稿: 福井公雄さん(神戸町在住)

表浜の地形とくらし

第2回 ～表浜の海食崖の地層について～ 藤城信幸(田原・赤羽根史現代編集委員)

図1のように表浜の海食崖の地層は、礫・泥・砂の層が3重になっています。久美原-寺沢間には寺沢泥層と赤沢泥層と呼ばれる上下2つの泥層がみられますが、久美原-大草の8.4kmには泥層はなく、砂と礫の地層が重なり合っています。白須賀を中心とした隆起運動により、天伯原面の標高は、久美原で65m、大草では40mになり、地層も同様に西に向かって傾いています。



写真1 赤土層と天伯原礫層(東神戸海岸)

地層の一番上にある天伯原礫層(写真1)は、灰色の横筋模様が特徴です。厚さ5mほどの水平に堆積した礫層で、硬砂岩の丸くて平らな数cmほどの大きさの海浜礫がきっかり並んでいます。35万年ほど前に海岸に堆積した礫層が隆起運動により標高50mの高さに持ち上げられました。長年の風雨で硬砂岩の表面は風化しがサガサになっています。上には風化して赤くなった赤土の層がのっています。天伯原礫層の下は黄白色の杉山砂層に変わります。杉山砂層はマミ砂とも呼ばれる細かな砂からなり、マミ砂は雨の流れでも簡単に縦筋の溝が掘れてしまうほど柔らかく、崩れやすい地層です。

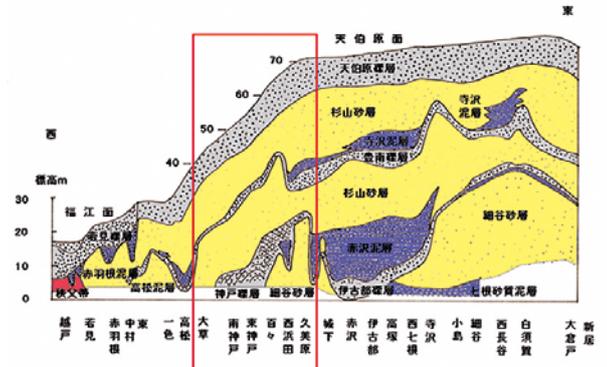


図1 渥美半島表浜の海食崖の地質断面図(杉山雄一1991)

写真2は、1965年の台風直後に田原町役場によって撮られた東神戸の海食崖の様子です。急峻な崖下には崩落した土砂が見え、一番上には天伯原礫層が確認できます。当時の海食崖には植生は見られず、地層がむき出した荒々しく切り立った断崖が続いていました。この頃の表浜海岸では東南海地震(1944年)、13号台風(1953)、伊勢湾台風(1959)などにより、崖の崩落や流出が相次ぎました。海岸侵食を食い止めるために、表浜海岸一帯ではヤシャブシ(ハンノキ)の植林や砂防ダム、テトラポッドの設置などの護岸工事が行われてきました。



写真2 台風によって崩落した海食崖

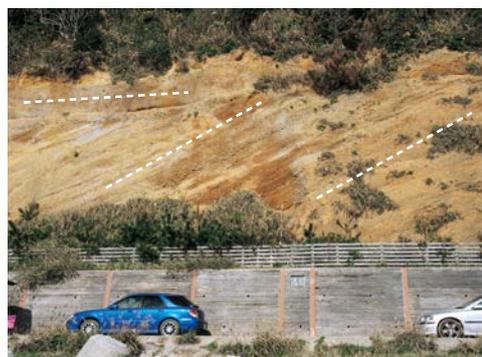


写真3 神戸礫層の斜交層理

浜田-谷ノ口間の海食崖の下部には神戸礫層と呼ばれる礫層が堆積しています。写真3のように神戸礫層の特徴は、丸い礫が斜めに平行して堆積する斜交層理が見られることです。神戸礫層の上部は水平方向の堆積に変化しています。この礫層の傾きは隆起によるものではなく、沿岸流で先端まで運ばれてきた海浜礫が、先へ先へと斜めに積み重なりながら海底に堆積することによって形成されました。この斜交層理の傾きからは沿岸流で運ばれてきた礫が、東から西に向かって順番に堆積してできたことがわかります。

写真4は、表浜海岸にある海浜礫を仲間分けしたものです。約6割が丸くて平らな硬砂岩、2~3割がチャートで、いずれも天龍川起源の礫です。硬砂岩は背後の灰色と黄灰色の2つに分けられます。黄灰色で砂粒が見える硬砂岩は海食崖中から供給された礫で、数10万年前に天龍川から運ばれ地層中で風化した古い礫です。暗灰色の礫は新しいものです。残りのやや角張った礫は豊川系の火成岩です。数10万年前に豊川が太平洋に流れ出ている時に河床に堆積した豊南礫層や伊古部礫層の礫が、崖崩れにより砂浜に供給されたものです。



写真4 海浜礫を礫種により仲間分け

「みんなで考え・行動する地域づくり」

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の概要

■会長あいさつ

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会 会長 安田 一正

本協議会は平成8年の発足以来23年目になります。六連・神戸・大草そして田原東部の4校区が主体となり、田原市の協力をいただきながら、自立した地域活動を歩み進めて参りました。

協議会の活動の一つに「表浜自然ふれあいフェスティバル」があります。この行事は、表浜海岸などの大自然の魅力を感じつつ清掃活動を行い、崖森の崩落や海岸侵食の現状を広く知ってもらうことを目的とし毎年開催しているものです。地域の方やボランティア、サーフィン協会、田原市立東部中学校など、多くの方々に携わっていただいています。

このようなイベント等を通して、同じ海岸環境を持つ地域との連携をとりながら、行政と一体となって海岸侵食対策、地震対策等に取り組むとともに、太平洋岸地域の快適で住みよい環境整備が実現できるよう活動していきたいと思っております。



今後の協議会の取り組み

- ・太平洋岸の魅力を発信するイベントの開催
- ・海浜・崖森・農地エリアのエリア別の整備促進
- ・渥美半島全体の連絡調整
- ・関係機関への要望活動等の展開

■協議会組織（令和元年11月現在・順不同）

役員	会長	安田一正(六連コミュニティ協議会長)
	副会長	浅野正三(神戸コミュニティ協議会長)、藤原喜郎(大草コミュニティ協議会長)、岡田惣二(田原東部コミュニティ協議会長)
委員	市議会議員	大竹正章、仲谷政弘、赤尾昌昭、村上誠
	漁業関係者	富田寛(愛知外海漁業協同組合理事)、太田行彦(愛知外海漁業協同組合網元代表)
	市農業委員	鈴木和徳、三浦和寿、大羽秀敏、木下和洋
	市役所	鈴木正直(副市長)、大羽耕一(産業振興部長)、河邊功治(建設部長)、鈴木隆広(都市整備部長)、宮川裕之(教育部長)
顧問	山下政良(田原市長)、山本浩史(愛知県議会議員)、高瀬与志彦(愛知みなみ農業協同組合代表理事組合長)	
事務局	市役所企画部企画課	

●表浜自然ふれあいガーデン 実現に向けてのこれまでの動き

海と森と農村における「自然と人」「人と人」のふれあいの庭(ガーデン)をイメージし、その実現のために、海・砂浜・崖・森・農地の保全と利用を図ると同時に、新たにレクリエーション・保養・学習などふれあい機能の導入を図るものです。

ハード事業

◆海岸整備(県事業)

- ◇海岸保全事業(傾斜護岸):百々海岸(H19)、離岸堤調査・工事(豊橋田原海岸)
- ◇海岸治山事業:9箇所要望中・随時実施予定(R1実施中:東神戸町東浜辺)

◆拠点地区の整備促進(市事業)

- ◇公衆便所整備事業:谷ノ口海岸(H9)・大草海岸(H10)・百々海岸(H11)・東ヶ谷海岸(H13)
- ◇海岸駐車場事業:大草海岸(H11)・百々海岸(H12)
- ◇道路整備事業:南谷ノ口1号線改良(H15)・寺前上り口線拡張(H16~H18)・高畑谷ノ口線改良(H17)・谷ノ口海岸線拡張(H17~)・R42公民館前交差点改良(H18~)
- ◇公園整備事業:表浜ほうべの森整備(H18~)
- ◇観光地維持管理事業:浜田海岸レンタルトイレ1基設置(6月~12月)(R1)

ソフト事業

◆表浜自然ふれあいフェスティバル(協議会事業)

- ◇メイン海岸:H10谷ノ口・H11大草・H12百々・H13東ヶ谷・H14大草・H15百々・H16分散開催・H17大草・H18百々・H19東ヶ谷・H20大草・H21百々・H22東ヶ谷・H23大草・H24百々・H25~26谷ノ口・H27大草・H28~30谷ノ口

◆表浜のレクリエーション

- ◇健康ウォーキング大会(市教育委員会):H10東ヶ谷・H11大草・H14谷ノ口・H15百々・H17百々
- ◇ふれあいウォーキング大会(六連青少年健全育成):H13六連海岸

多額の予算を必要とする海岸保全事業の継続的な実施には、国土保全・防災面に加え、表浜海岸の持つ多面的価値の創造を行い、投資効果の向上を図る必要があります。

●農地エリアの整備 実現に向けてのこれまでの動き

ハード事業

◆農村・農地の整備(市事業)

- ◇農村振興総合整備事業:神戸地区(H12~H16)・大草、高松地区(H18~)・田原東部地区(H19~)
- ◇農用地基盤整備事業:谷熊新田排水対策(H20~H26)
- ◇農地・水・環境保全向上対策(H19~H25) ◇多面的機能支払事業(H26~)

ソフト事業

◆農地基盤に関する実態調査(市事業)

- ◇農地基盤再整備に関する調査:H11表浜全域

道路・排水・農地区画・ため池などの農業基盤に加え、集落環境を含め総合的な整備促進を図ります。

表浜風土記 Interview

「はあ〜どすこい どすこい 大草甚句」

大草の歴史と文化を学ぶ会

1. 大草甚句とは

平成23年、「大草の歴史と文化を学ぶ会」主催の「第5回宝幢寺跡お月見会」で豊橋相撲甚句会の都築さんなどが相撲甚句を披露することになりました。そこで、大草の甚句も披露してはどうかという話になり、大草の歴史と文化を学ぶ会が素案を出し、甚句会のメンバーがきちんとした甚句に仕上げました。

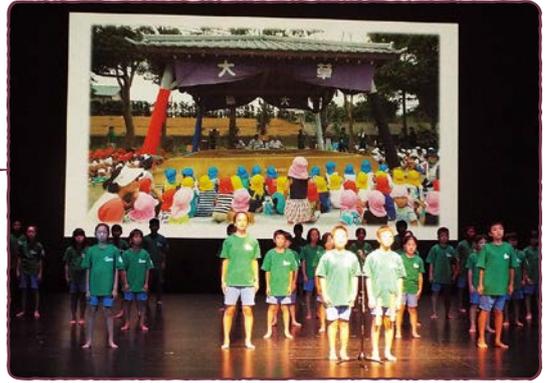
2. 大草小学校児童が豊橋で

「今も残れし土俵では ちびっこ力士の大草小 ホイ」甚句にはこんな一節があります。大草小学校では立派な土俵を使って、運動会などの種目に入れるなど相撲に力を入れています。また、この2年は相撲体操もとり入れています。

今年8月、穂の国とよはし芸術劇場プラットで開催された芸能フェスティバルで「大草相撲体操・大草甚句」を演じました。甚句は豊橋相撲甚句会の指導を受けました。

3. 地元のお月見会でも

「ハー春は花咲く大草路 いちごキャベツに舞う蝶の ホイ」9月14日の「第13回宝幢寺跡お月見会」の場で、同様に大草小学校の発表メンバーが大草甚句を披露しました。約200名のお月見会参加者はじっと子どもたちの声に聞き入っていました。相撲や甚句、伝統あるものをこれからも引き継いでいってほしいものです。



穂の国とよはし芸術劇場プラットにて大草相撲体操・大草甚句を披露しました。

大草甚句

ハアードスコイドスコイ
 田原市大草甚句でよめばヨーハアードスコイドスコイ
 ハー春は花咲く大草路 いちごキャベツに舞う蝶のホイ
 そよ風香るメロン畑 ピンクの畑は市民館ホイ
 学ぶ方やら習う人 今も残れし土俵では
 ちびっこ力士の大草小ホイ 表浜にはウミガメか
 夏には投げ釣りサーフィンとホイ 宝幢寺跡のお月見は
 お茶をたてたり唄ったり 自然の恵み豊かなりホイ
 網をかければ大漁だ 北に流れし汐川がホイ
 田んぼの恵み運び来る 半身の森では獅子が舞い
 オオクサ椿はむらさきヨホイ
 これぞ豊かなヨーホホイ大草ヨーハアードスコイ ドスコイ

作 大草の歴史と文化を学ぶ会
 編修 豊橋相撲甚句会 都築洋征

令和元年度事業計画

主要事業

第22回表浜自然ふれあいフェスティバル

日時 ● 令和元年12月7日(土) 午前9時～午後0時30分
 ※悪天候の場合は、12月8日(日)に延期

場所 ● 久美原～大草の表浜一帯
 ※親睦会場は表浜ほうべの森(田原市谷ノ口公園)

内容 ● 海岸清掃、地引網、津波避難訓練、スポーツレクレーション、クイズ大会、地元の食材を使った豚汁や石窯ピザなどの無料提供ほか

目的 ● 表浜海岸の魅力、海岸侵食などの現状を広くPRすることで海岸整備の促進を図る

※フェスティバルの内容は、変更になる場合があります。

主な推進事業

農村総合整備事業：田原市産業振興部農政課
 [大草・高松地区、田原東部地区]

多面的機能支払事業：田原市産業振興部農政課
 [六連・神戸・大草・田原東部各校区]

海岸治山事業：愛知県東三河農林水産事務所

海岸保全対策：愛知県東三河建設事務所

谷ノ口公園管理事業：田原市都市整備部街づくり推進課

★表浜地域づくり情報誌「潮騒」や「協議会活動」に対するご意見・ご要望・ご感想をお寄せください。

【発行】田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会(事務局:田原市役所企画部企画課) 〒441-3492 愛知県田原市田原町南番場30-1 TEL0531-23-3507